



(3)

木簡は合計五点出土し、(1)と(2)が流路跡から、他は土壌から出土した。(1)は木簡の中央部に文字が書かれているが、ほとんど消えてしまっている。文字が書かれていた部分は他の部分より腐蝕が遅れるようで、若干浮き上がっており、今後判読可能かもしれない。性格としては(2)とともに呪符木簡と思われる。

(3)の第一字は「鯖カ」としたが、あるいは鰯の可能性もある。用途としては荷札であろう。

(4)の「筑後様」の上の二文字が判読できない。したがって人物の比定はできないが、共伴遺物から一六世紀後半に位置づけられ、今川氏に関係する人物の可能性が高い。

五点目の木簡は墨痕は認められるが判読不能であった。

9 関係文献
静岡県教育委員会『駿府城跡内埋蔵文化財発掘調査報告書』(一九八七年)

八三年)

同『駿府城三の丸跡発掘調査報告書』(一九八七年)

(羽二生保)

一九七七年以前出土の木簡(四)
平城宮跡(第二三二次・第二七次・第二八次・第二九次)

呪符木簡の系譜

木簡と上代文学——水産物付札をめぐって——
「漆紙文書」出土概要

彙報

頒価 三五〇〇円 ￥四〇〇円

木簡研究第四号

卷頭言——木簡保存法の思い出——

一九八一年出土の木簡

坪井清足

概要 平城宮跡 奈良女子大学構内遺跡 法隆寺 藤原宮跡 長岡京跡 三条西殿跡 鳥羽離宮跡 若江遺跡 佐堂遺跡 大阪城
三の丸(大手口)遺跡 小曾根遺跡 尾張國府跡 下津城跡 坂尻遺跡 小川城跡 恒川遺跡 三ツ寺Ⅱ遺跡 下野國府跡 多賀城跡 郡山遺跡 胆沢城跡 道伝遺跡 笹原遺跡 明成寺遺跡 安田遺跡 大森鐘島遺跡 高堂遺跡 漆町遺跡(C地区) 南吉田葛山遺跡 百間川遺跡群(原尾島遺跡) 草戸千軒町遺跡 道照遺跡 長門国分寺跡 野田地区遺跡 湯川神社境内遺跡 大宰府跡(大楠地区) 九州大学(筑紫地区) 構内遺跡 長野遺跡 辻田西遺跡

和田

小谷博泰
佐藤宗諄